

氏 名		受験番号	
-----	--	------	--

2025年度 大学院入学試験問題
 経済学研究科
 経済学専攻 博士前期課程 <一般入試(秋)>
筆 記 試 験

(注意) 解答は別紙解答用紙を使用のこと

ミクロ経済学 ・ マクロ経済学 ・ 計量経済学 ・ 経済史 ・ 社会経済学

問題1 消費者Aさんによる現在（勤労期）と将来（引退期）の2期間の消費計画(C_0, C_1)を考える。ただし、 C_0 は現在の消費、 C_1 は将来の消費を表す。Aさんの効用関数は、 $U(C_0, C_1) = U(C_0) + \delta U(C_1)$ で表される。ただし、 δ は時間割引因子を表し、 $0 < \delta < 1$ とする。Aさんの現在所得 $\bar{Y}_0$ および将来所得 $\bar{Y}_1$ は所与で、 $\bar{Y}_0 > \bar{Y}_1$ とする。ただし、金融市場では、金利は1期間当たり r で貸借が自由にできるとする。

- (1) Aさんの消費計画問題を定式化しなさい。
- (2) Aさんの最適消費計画のための1階条件を示し、その意味を説明しなさい。
- (3) Aさんの最適消費計画(C_0^*, C_1^*)と最適貯蓄 S^* を、図を用いて説明しなさい。
- (4) 金利 r が上昇すると、Aさんの最適貯蓄はどうなるか、図を用いて説明しなさい。ただし、所得効果と代替効果という語を必ず用いること。
- (5) 他の条件は同じで、時間割引因子 δ だけがAさんよりも小さいBさんについて、Bさんの最適貯蓄はAさんのそれと比べてどう違うか、説明しなさい。

問題2 ある地域で商品Xを製造販売している独占企業A社は、利潤が最大となる価格（高価格 P_H ）と、それより低い価格（低価格 P_L ）の2つの価格設定戦略を持っている。A社は、高価格 P_H よりも敢えて低価格 P_L に設定することによって、潜在的な参入企業の参入を阻止することがある。このことについて、以下の問いに答えなさい。

- (1) この独占企業A社が潜在的な参入企業の参入を阻止する行動をとるようなゲームの木の例を、2社の利得の数値例を付けて提示し、数値例の数値の意味を含めて説明しなさい。
- (2) (1)で示したゲームの木を用いて、A社が低価格 P_L に設定して付けて参入阻止を行うことを説明しなさい。ただし、部分ゲーム完全均衡という語を必ず用いること。

氏 名		受験番号	
-----	--	------	--

2025年度 大学院入学試験問題
経済学研究科
経済学専攻 博士前期課程 <一般入試(秋)>
筆 記 試 験

(注意) 解答は別紙解答用紙を使用のこと

ミクロ経済学 ・ **マクロ経済学** ・ 計量経済学 ・ 経済史 ・ 社会経済学

表1は1929年から1933年の間におけるアメリカのマネーサプライと関連データの値を示している。

表1 1929年と1933年におけるマネーサプライとその決定要因(単位:10億ドル、%)

	1929年8月	1933年3月
マネーサプライ	26.5	
通貨	3.9	5.5
要求払い預金	22.6	13.5
マネタリーベース	7.1	
通貨	3.9	5.5
準備	3.2	2.9
貨幣乗数		
準備・預金比率	0.14	
現金・預金比率	0.17	

出所:マンキュー マクロ経済学I入門篇(第4版) 139ページ

N・グレゴリー・マンキュー著/足立 英之訳/地主 敏樹訳/中谷 武訳/柳川 隆訳

以下の全ての問いに解答しなさい。なお、解答に当たっては、計算過程を数式で示すこと。

問1 1933年3月におけるマネーサプライとマネタリーベースの値を求めなさい。

問2 この期間におけるマネーサプライとマネタリーベースの増加率を求めなさい。

問3 1929年8月と1933年3月における貨幣乗数の値を求めなさい。

問4 1933年3月における準備・預金比率、現金・預金比率を求めなさい。

問5 多くの経済学者は大量の銀行破綻がマネーサプライを減少させ大恐慌の主因となったと考えている。表1のデータを用いて、現金・預金比率は事実どおり上昇したが、準備・預金比率が変わらなかった場合におけるマネーサプライの増加率と貨幣乗数の値を求めなさい。実際のマネーサプライの増加率や貨幣乗数と比較しながら銀行破綻が大恐慌の主因かどうか論じなさい。